

協同組合徳島総合流通センター

組合員自身による自主的な取り組みで

流通の未来を拓く

サマリー

円満・人の和を表す“円”の中に、“TOKUSHIMA RYUTSU CENTER”の頭文字を示した組合のシンボルマーク。異業種組合でありながら、様々な事業・行事を通じて組合員間の交流、連携を図ってきました。

また、徳島の文化振興に寄与する音楽祭の開催、近年では地域住民の方々と防災訓練を行うなど多くの人との和を大切にし、親しみのある団地作りを目指しています。



I. 組合設立の背景と目的

協同組合徳島総合流通センターは、徳島県内の卸売業者が集団化して、経営の近代化、合理化を図ろうと1974年に自主的に発足し、1976年に協同組合の設立に至りました。そして、組合員主導による立地選定、用地取得、また、国の高度化事業を活用して、1984年に組合員35社で当団地を竣工させました。このように組合員自身による自主的な取り組みに最大の特色があります。

協同組合設立から、40年以上が経過し、現在では39社の組合員企業による異業種卸売団地を形成しています。当団地は徳島ICに隣接しており、明石海峡大橋に通じる鳴門ICおよび徳島あわおどり空港からもアクセスが便利であり立地に恵まれています。

本組合の綱領には、「我々は、共同連帯意識を基本とし、協同により企業の成長発展を期し、広く地域社会に貢献する」を定めており、時代の要請に応えながら、顧客や地域社会のニーズに応える商品・情報・サービスの提供に日々努力しています。



美馬 秀夫 理事長

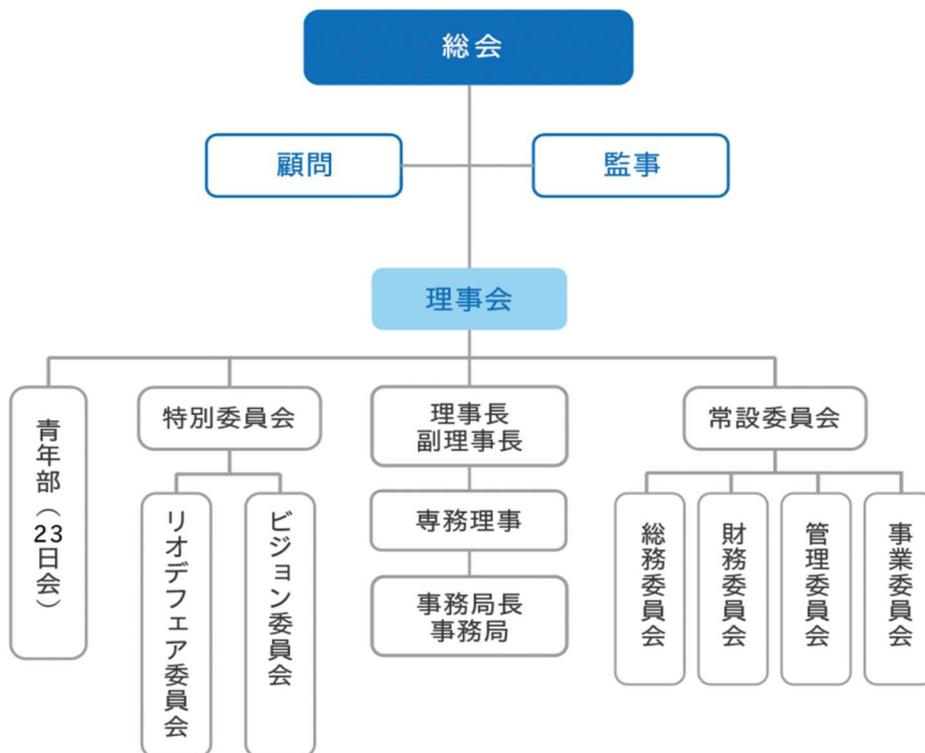


協同組合徳島総合流通センター 航空写真
(1984年3月 団地竣工時)

II. 組合の沿革

1976年	協同組合徳島総合流通センター設立。
1981年	高度化事業計画承認される。用地を購入し、造成工事起工。
1984年	団地完成竣工(35社) 記念式典を開催。
1996年	補完事業として用地購入、造成。共同倉庫(2号)、共同駐車場増設。
2001年	団地南側を補完事業にて5筆拡張。
2009年	空き店舗の改築による企業誘致により、未利用地を全て充足。
2015年	徳島県中小企業団体中央会創立60周年記念 徳島県知事表彰受賞(青年部23日会)
2016年	新規組合員加入を見込み、新地購入。 創立40周年記念式典開催。

組合組織図



Ⅲ. 共同事業

下記の組織図にみられるように、常設委員会は4委員会があり、特別委員会にはビジョン委員会（Ⅵ）とリオデフェア委員会（Ⅴ）とがあります。

なお、共同事業の主なものとしては、下記の5つがあります。

① 諸会議（定例会、常設委員会、ビジョン委員会）

定例会は毎月第4月曜日に開催。綱領を唱和し、理念の浸透を図りながら諸課題について協議を行っています。

② 合同入社式

毎年4月に、組合員企業合同で新入社員の入社式を行っています。入社式後は新入社員向けのビジネスマナー講座の開催、年間行事について機関誌を用いて紹介するなどしています。

③ 青年部活動

1981年の設立以来、毎月23日頃に定例会を開催していることから「23日会」と称し勉強会や国内外企業等への視察研修を行っています。

④ 研修、講習会の実施

毎月の定例会において、各界の有識者を講師として迎え組合員向けの講習会を行っています。企業経営者、管理職従業員、若手後継者それぞれを対象とした研修会も開催、また、組合研修旅行として県外企業だけでなく海外企業の視察も数年に一度実施しています。今年度は茨城県の企業視察を行いました。

⑤ 環境整備

毎月第1木曜日を「清掃の日」と決めて、全組合員参加のもと団地内の各社、共同施設、道路全体の清掃を実施しています。樹木の剪定・消毒も定期的に行っています。



IV. 組合員間の情報交流

組合会報誌として徳島総合流通センターニュース「リオデだより」を発行しています。会報の発行は不定期ですが、近年は年間3～4回発行しており、2020年1月20日には第137号を発行しました。組合の事業報告や主要行事の参加者の声を紹介するなど、組合員の現状を写真などふんだんに使いながら組合員の活動を生き生きと紹介しています。組合員企業の全社員に読んでいただけるよう毎号1,000部発行しており、事務局に置くとともに会員に配布して情報の共有化を図っています。

ホームページも昨年度にリニューアルしており、流通団地を空撮した写真がスライドで見られるほか、組合会館の大ホールや会議室及び共同倉庫の予約状況が閲覧できるようになりました。また、新規就職者を募るために、ホームページから各社の個別のホームページにリンクできるようにしており、組合員から「便利になった」との声が上がっています。

V. 地域貢献・社会貢献活動

1. リオデ徳島音楽祭

当組合の綱領に掲げる地域社会への貢献についての代表的な取り組みとして「リオデ徳島音楽祭」を上げることができます。

リオデ徳島音楽祭は、2019年11月の開催で第29回目を好評のうちに終えました。第87回日本音楽コンクール入賞者演奏会に入賞した3名を招き、演奏会を開催したものです。音楽祭をしている流通センターは全国でもないのではないかとみられるほどユニークな取り組みです。

リオはポルトガル語で河という意味で、リオデ徳島音楽祭は、徳島の物流と情報の流れの中心になっていくという当組合の願いをこめたネーミングです。

1991年に徳島の文化の向上に貢献しようと、最初の頃は徳島市文化センターで実施していましたが、同センターが使えなくなってからは、徳島文理大学の協力を得て同大学のむらさきホールを使用しており、音響装置も非常に良く、出演者・観客ともに好評で、徳島県になくてはならない音楽祭としてすっかり定着しています。



2. 防災訓練

2013年に組合でBCP関連事業の促進の一つとして、参加型の防災訓練に取り組みました。その後、毎年10月に組合員、近隣住民の方々を交えて合同避難訓練を実施しています。



VI. 今後の方向性をビジョン検討委員会で研究中

現在、事務局を牽引している藤原専務理事は、組合の運営に尽力されている2名の事務局の支えに加えて、銀行員として過去に何度も流通センター支店に勤務したこともあり、当組合の経緯や業務に精通しているのが強みです。そんな専務理事が全国へ出張した時の経験等から、業態が変わりつつあることや、建物や設備の老朽化が進んでおり、「未来に向けて方向性をみつけない」という思いから行動を起こさせたのがビジョン委員会です。

最初は40歳代の若手社長らと専務理事の6人でスタートし、仙台、長崎、広島、松山、北海道、石川などの流通団地を見学し、運営状況を聞き、さらに将来に向かってどのような取り組みをしているのかを聞いて回りました。どこにも設立時には、考えもしなかった変化が見られ、空き倉庫を能舞台に利用しているところや組合会館の階上に復興住宅が建てられるなどの事例も見られました。長崎では狭隘地であるという特質から株式会社を設立し、カーシェアリング・レンタカー事業に取り組むなど、時代の変化に対応すべく新規事業に積極的に取り組んでいる事例に接しました。

これらの事例を参考にしながら、ビジョン委員会で将来のあるべき姿について意見交換を進めています。

VII. 徳島県中央会を利用してよかった点

中央会は、年間を通して情報誌やホームページなどでタイムリーな情報を知らせてくれます。また、組合運営にあたって分からないことを問い合わせると教えていただけるので助かっています。

■中央会担当指導員のことば



三木主事

協同組合徳島総合流通センターは、専従の専務理事を置き各委員会も活発に活動しており、執行部体制は盤石なものです。組合員の結束力も強く、円滑な組合運営をされています。

当組合は、地域貢献活動を組合設立当初より行っており、特にリオデ徳島音楽祭は子どもたちの豊かな感性を育て多くの地域の皆様に愛され徳島の秋になくはないイベントです。

また、現状に甘んじることなく常に高みを目指しておられ、組合員から事務局、役員会へのボトムアップによる意思決定が行われています。時代の状況に応じた対応に加え、組合員と共存共栄の可能性を模索されています。これまで長きにわたる組合員企業による、地域社会に貢献する積極的な活動の継続は、まさに他の組合へのモデルとなるものと言えます。

《組合概要》

住所 徳島市川内町平石流通団地51番地

URL <https://www.trc.or.jp/>

電話番号 088-665-4100 FAX番号 088-665-4658

組合代表者(役職・氏名) 理事長 美馬 秀夫 出資金 987,81万円

主たる業種 異業種(卸売業、自動車整備業、運送業、倉庫業、サービス業、その他)

組合専従職員数 3名 組合員数 39名

組合員の資格 本組合の管轄地区内(徳島県)において事業場を有するものであり、卸売業、自動車整備業、運送業、倉庫業、サービス業、その他を営む事業者が加入できます。

設立年月日 昭和51年3月11日 設立後の経過年数 44年